

《 森里川海ふるさと絵本 》

みんなの さかわがわ



《森里川海ふるさと絵本》

みんなの さかわがわ



酒匂川水系保全協議会
60周年記念事業

つなげよう、
支えよう
森里川海



Teiko Noji

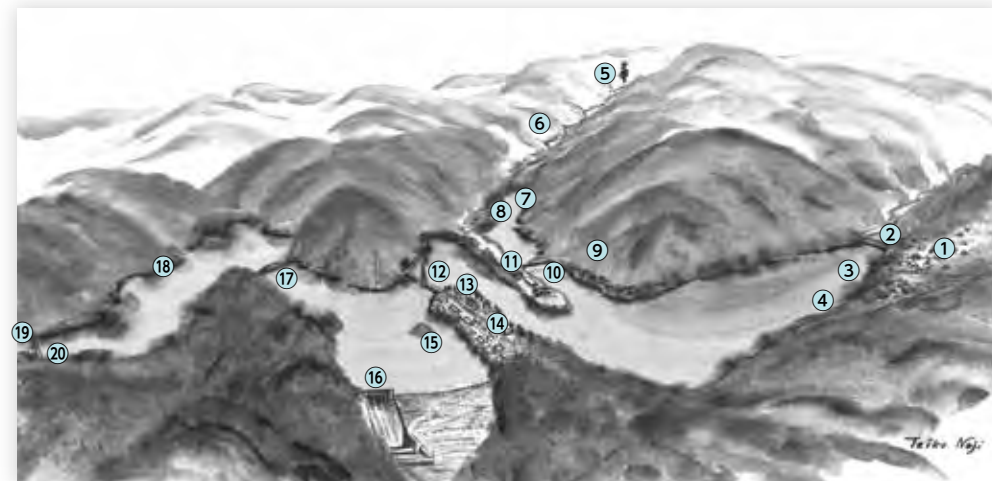
《 森里川海ふるさと絵本 》

みんなの さかわがわ



三保ダムができる前

- ①玄倉 ②玄倉川 ③幕杉
- ④幕沢 ⑤中川 ⑥中川川
- ⑦畑 ⑧焼津 ⑨大仏
- ⑩落合 ⑪尾崎 ⑫田ノ入
- ⑬河内川 ⑭至神縄
- ⑮方ノ口 ⑯世附川
- ⑰中庭 ⑱世附 ⑲中畑
- ⑳至浅瀬



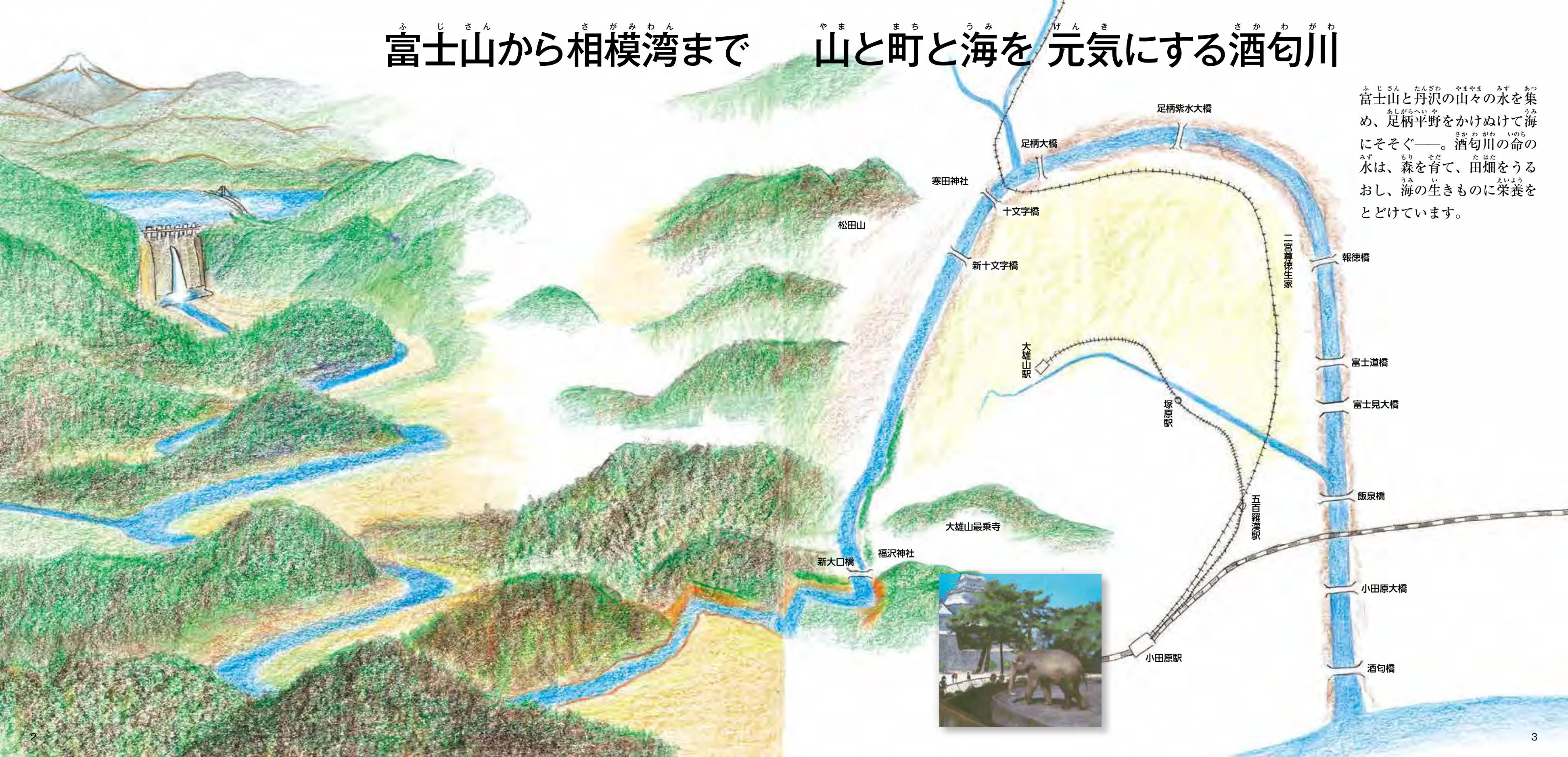
三保ダムができた後 (丹沢湖)

- ①玄倉 ②玄倉川橋
- ③玄倉大橋 ④カヌー会場
- ⑤幕杉 ⑥中川温泉
- ⑦中川橋 ⑧ボート乗り場
- ⑨展望台 ⑩大仏大橋
- ⑪三保小・中学校
- ⑫永歳橋 ⑬丹沢湖記念館
- ⑭三保の家 ⑮ポッコウ塚
- ⑯三保ダム ⑰世附大橋
- ⑱望郷の碑 ⑲至浅瀬
- ⑳世附川橋



富士山から相模湾まで

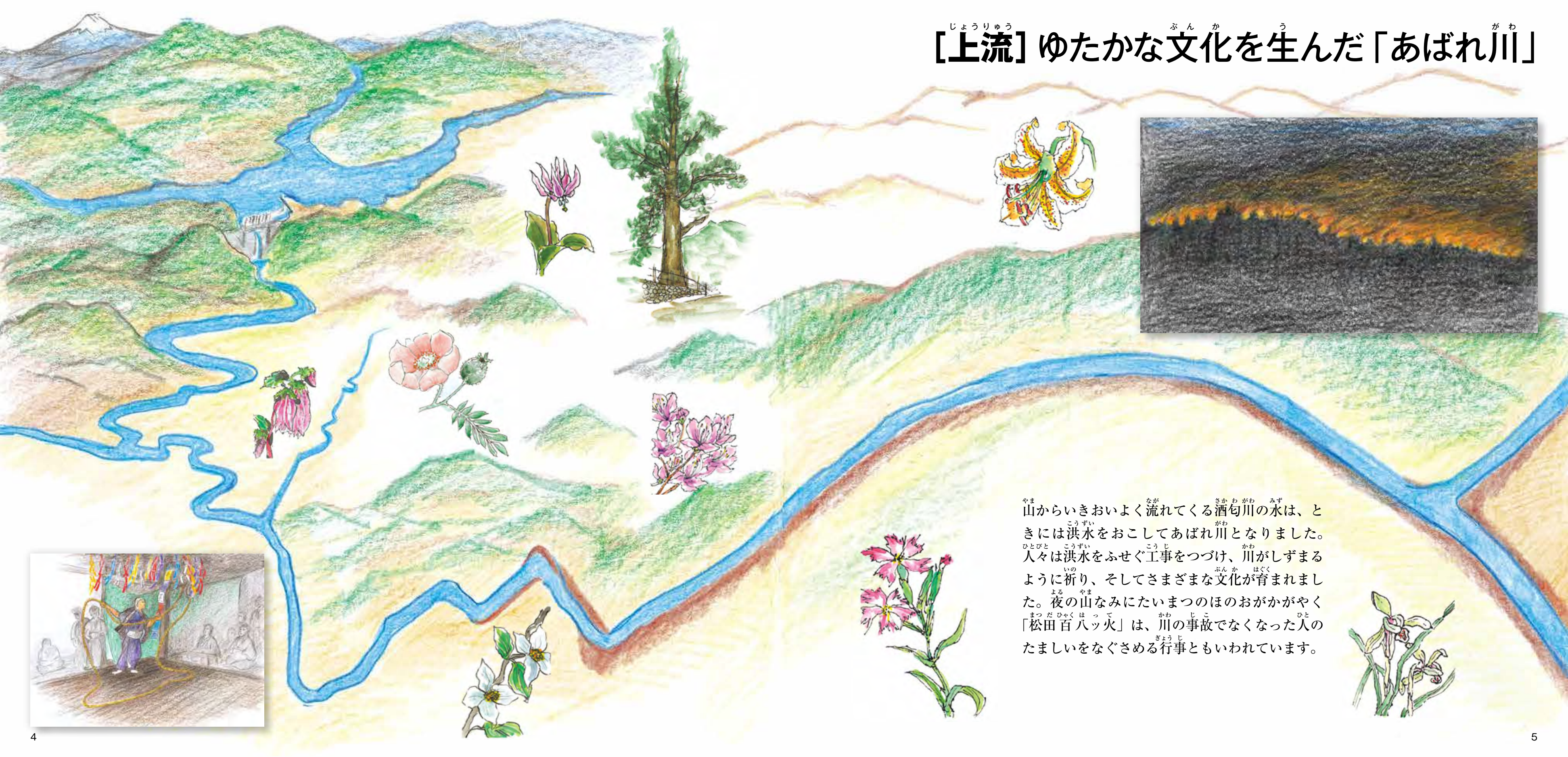
山と町と海を 元気にする酒匂川



富士山と丹沢の山々の水を集め、足柄平野をかけぬけて海にそそぐ——。酒匂川の命の水は、森を育て、田畑をうるおし、海の生きものに栄養をとどけています。

- 足柄紫水大橋
- 足柄大橋
- 寒田神社
- 松田山
- 十文字橋
- 新十文字橋
- 大雄山駅
- 塚原駅
- 五百羅漢駅
- 小田原駅
- 新大口橋
- 福沢神社
- 大雄山最乗寺
- 二宮尊徳生家
- 報徳橋
- 富士道橋
- 富士見大橋
- 飯泉橋
- 小田原大橋
- 酒匂橋

[上流] ゆたかな文化を生んだ「あばれ川」



山からいきおいよく流れてくる酒匂川の水は、ときには洪水をおこしてあばれ川となりました。人々は洪水をふせぐ工事をつづけ、川がしずまるように祈り、そしてさまざまな文化が育まれました。夜の山なみにたいまつのおがかがやく「松田百八ッ火」は、川の事故でなくなった人のたましいをなぐさめる行事ともいわれています。



あそ あいて だい し ぜん
遊び相手は大自然



たのぼの
スケートリンク

ふゆ冬になると、田ノ入発電所のそばの田んぼに水を入れて凍らせたスケートリンクがオープン。寒さで手足がしもやけになりながら、子どもたちは夢中でスケートを楽しんでいました。



れっしや
トロッコ列車にのって
さんさい
山菜とりに

やま山にフキやヤマメをとりに行くときは、木材をはこぶトロッコ列車に乗せてもらえました。フキは子どもがかさにできるほど大きく、はこぶのがたいへん。ゲームもケータイもない時代、子どもたちは自然の中で遊んでいたのです。



やまのめぐみで活気づく町



やまきたえき おお 山北駅は大にぎわい

しょうわのはじめごろまで、やまきたえき とうかいどうほんせん おおえきのひとつでした。やまからはこんだ木材は高い値だんで売れたので、やまきたまち りんぎょうしょうばいをする人たちが大ぜい行き来していました。



302個の おお 大じゅずをまわす

まいとし がつ にち やまきたまち よづく のうあんじ ひやくまんべんねんぶつ ぎょうじ おこな 遍念仏」という行事が行われます。舞をおどる人、たいこをたたく人、念仏（なむあみだぶつ）をとる人・・・なかでも、302個をつないだ長さ9メートルの大じゅずを青年たちがぎつぎにまわしていくすがたと音は見ものです。



[中流] 命の水が育てる田畑のみのり

朝日観音



矢倉沢

足柄神社



大雄山最乗寺



御嶽神社

足柄大橋

足柄紫水大橋

開成駅

栢山駅

報徳橋

富水駅

富士道橋

岩原駅



酒匂川がはこんでくる水のおかげで、足柄平野の田畑ではおいしい米や野菜、くだものがたくさん作られました。江戸時代、この地の農家に生まれた二宮金次郎は、こまっている農村を助けるためにたくさんの業績を残しました。酒匂川の土手の松並木はその時代から堤防を守るために植えられ、二宮金次郎も何本かを植えたと言いつたえられています。また空き地に菜の花を育ててなたね油をとり、夜の明かりとして本読みに利用しました。



しゅん か しゅうとう
春夏秋冬 暮らしのイベント



せつぶん まめ
節分の豆まき(2月)



だんご焼き(1月)

米のこなをお湯でねり、だんごに丸めて木の先にさして焼きます。また米だわら、花、野菜、たからものなどの形にしたものもかざりました。



たんご せつく
端午の節句(5月)



つきみ
お月見(9月)



ひな祭り(3月)



まんが洗い(6月)

田植えがぶじに終わってほっとひと息。おすしを作ったり、あんころもちをついたり、買いものに行ったりして休みのひとときを楽しみます。

※「まんが」は畑をたがやす道具「まぐわ」がなまった言い方。

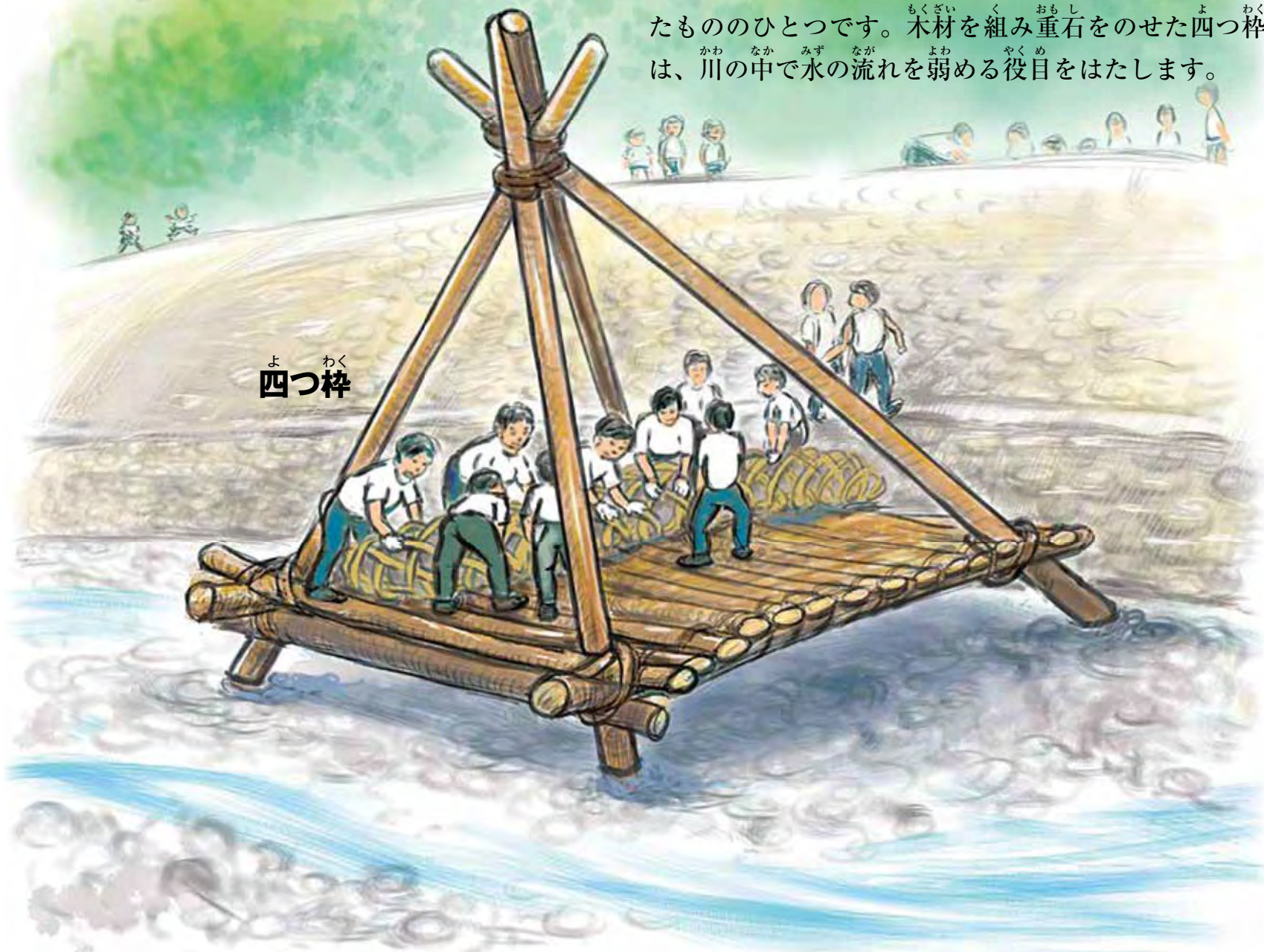
しょうがつ
正月じゅんび(12月)



川を静めて命を守る知恵

川の流のいきおいを弱める(四つ杵)

台風で大水になると、1メートルくらい大きな石が川をころがり地ひびきをたてていたそうです。酒匂川は流れが急で、昔から大雨がふるとたびたび洪水を引き起こしていました。洪水によってくらしや命がうばわれないように人々は知恵をしぼり、四つ杵もそうした努力から生まれたもののひとつです。木材を組み重石をのせた四つ杵は、川の中で水の流れを弱める役目をはたします。

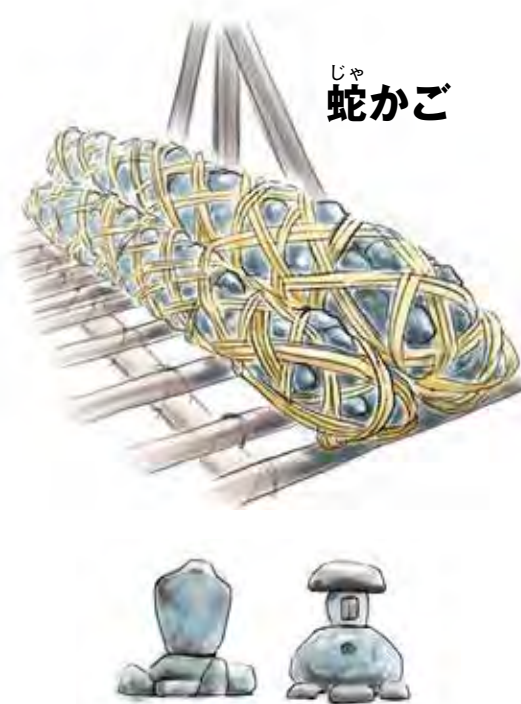


よわく 四つ杵

流れの向きを変えて水の力をうばう(大口文命堤)



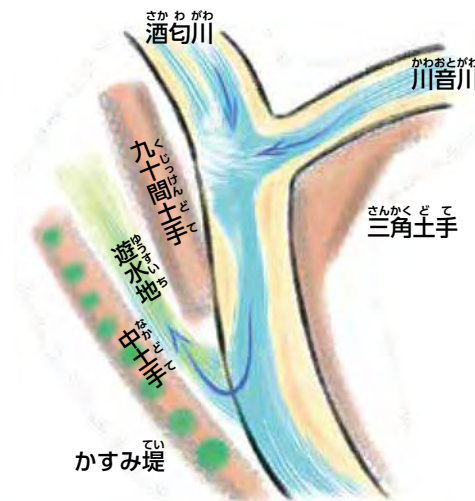
土手を作って流れを変え、「釜淵」「千貫岩」にぶつけることでいきおいを弱めます。江戸時代、田中丘隅という指導者の教えで作られました。



じゃ 蛇かご

木工沈床は、堤防などをつくるときに川底を安定させるために使います。また蛇かごは、竹で編んだ細長いかごに石をつめこんだもので、川を安全にする工事にさまざまな形で使われてきました。どちらも古い時代からありますが、自然のもので作られていて環境にやさしいということで、ふたたび注目されています。

あふれる川の水を安全な所にながす(かすみ堤)



堤防の一部をわざと開けておき、流れこんでもだいじょうぶな場所に増えすぎた水をみちびくしくみです。戦国時代に武田信玄が考えたと言われています。

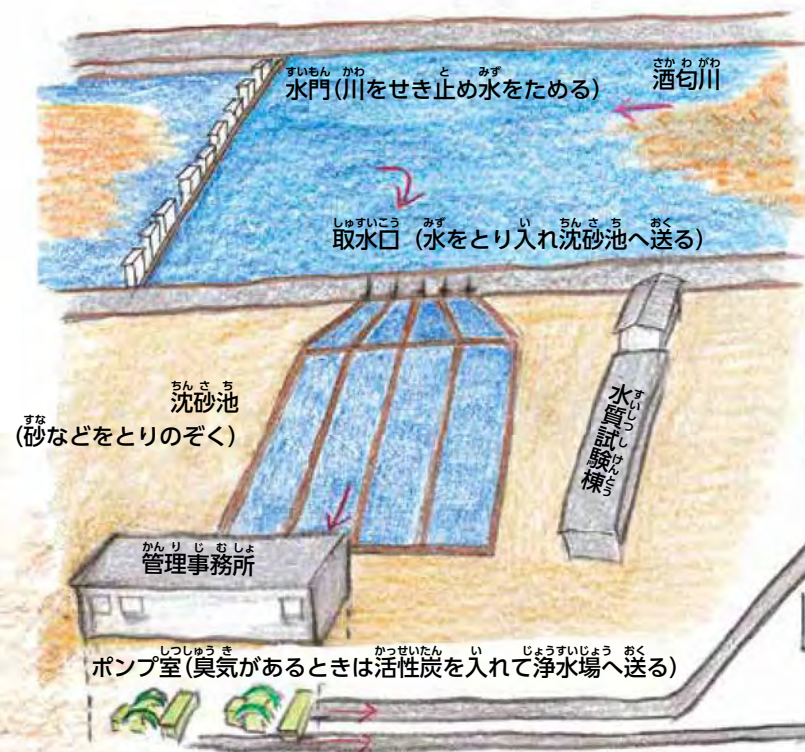


もっこうちんしょう 木工沈床

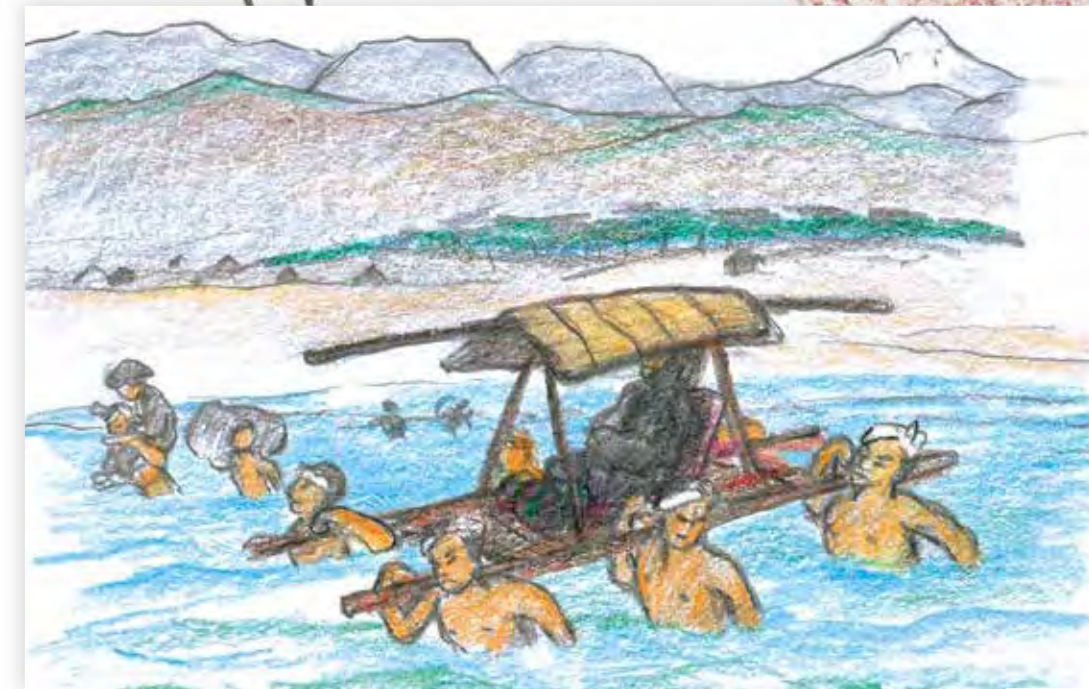
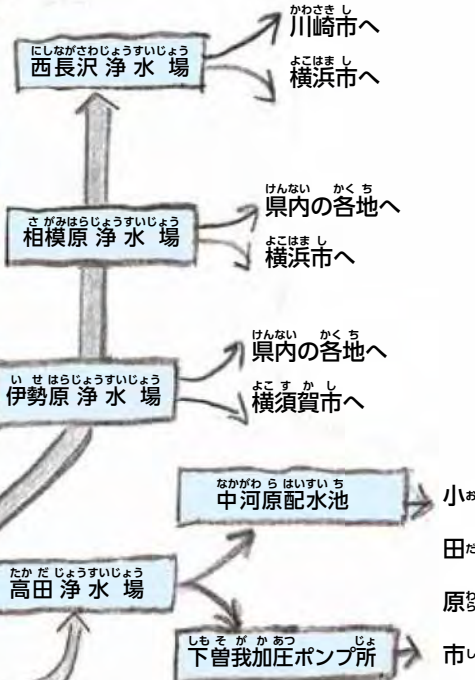
[下流] 人と水が行きかう交差点

とうかいどう たびびと さかわがわ ひと
 東海道をゆく旅人が、酒匂川を人にかつがれてわたったのは江戸の昔。今や2本の
 てつどう ほん しゃどう さかわがわ い き
 鉄道、8本の車道が酒匂川をこえて行き来しています。そして下流の飯泉取水堰か
 らは、さかわがわ いのち みず おだわら よこはま かわさき よこすか かながわけん かくち
 はこ ひとびと まいにち
 運ばれ、人々の毎日の暮らしをささえています。

飯泉取水堰



かくじょうすいじょう えんそししょうどく
 各浄水場では塩素消毒などをして、
 みず
 水をきれいにして水道水として配水する



川と海のおくりもの

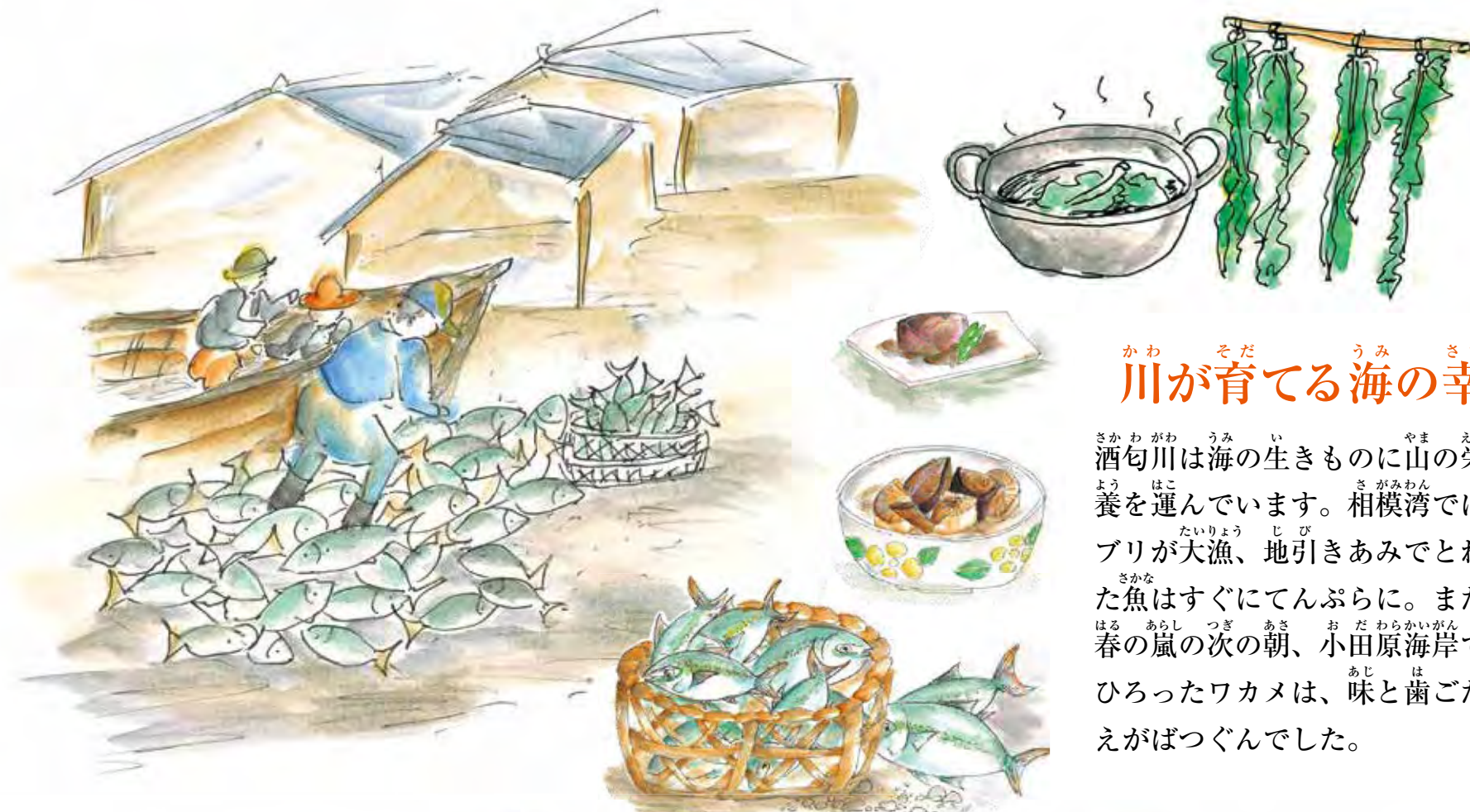


酒匂川といえばアユ

夏になると、本流から田んぼにまでアユがたくさん上り、スイカのようなアユのにおいがただようほど。酒匂川のアユはシュツとしていておいしく、とくに自分でつったアユの味はかくべつでした。

メダカの泳ぐ川

酒匂川につながる用水路や川にはメダカがすんでいるところもあり、神奈川県内では、野生のメダカが生息する最後の場所であると言われています。小田原市には、メダカの保護区もあり、大切に守られています。



川が育てる海の幸

酒匂川は海の生きものに山の栄養を運んでいます。相模湾ではブリが大漁、地引きあみでとれた魚はすぐにてんぷらに。また春の嵐の次の朝、小田原海岸でひろったワカメは、味と歯ごたえがばつぐんでした。



おお ひと じょう か まち 大ぜいの人でにぎわう城下町

まつり がお祭りがなによりの楽しみ

御幸の浜で打ち上げられる花火は海面にうつってそれは色あざやか。50年前までは、遠く開成・松田からも見えたといいます。また曾我の梅まつりでは、馬に乗って弓を射る流鏑馬や獅子舞が行われ、大ぜいの人が集まります。



ゆうえん ち せんごく しろ 遊園地になった戦国の城

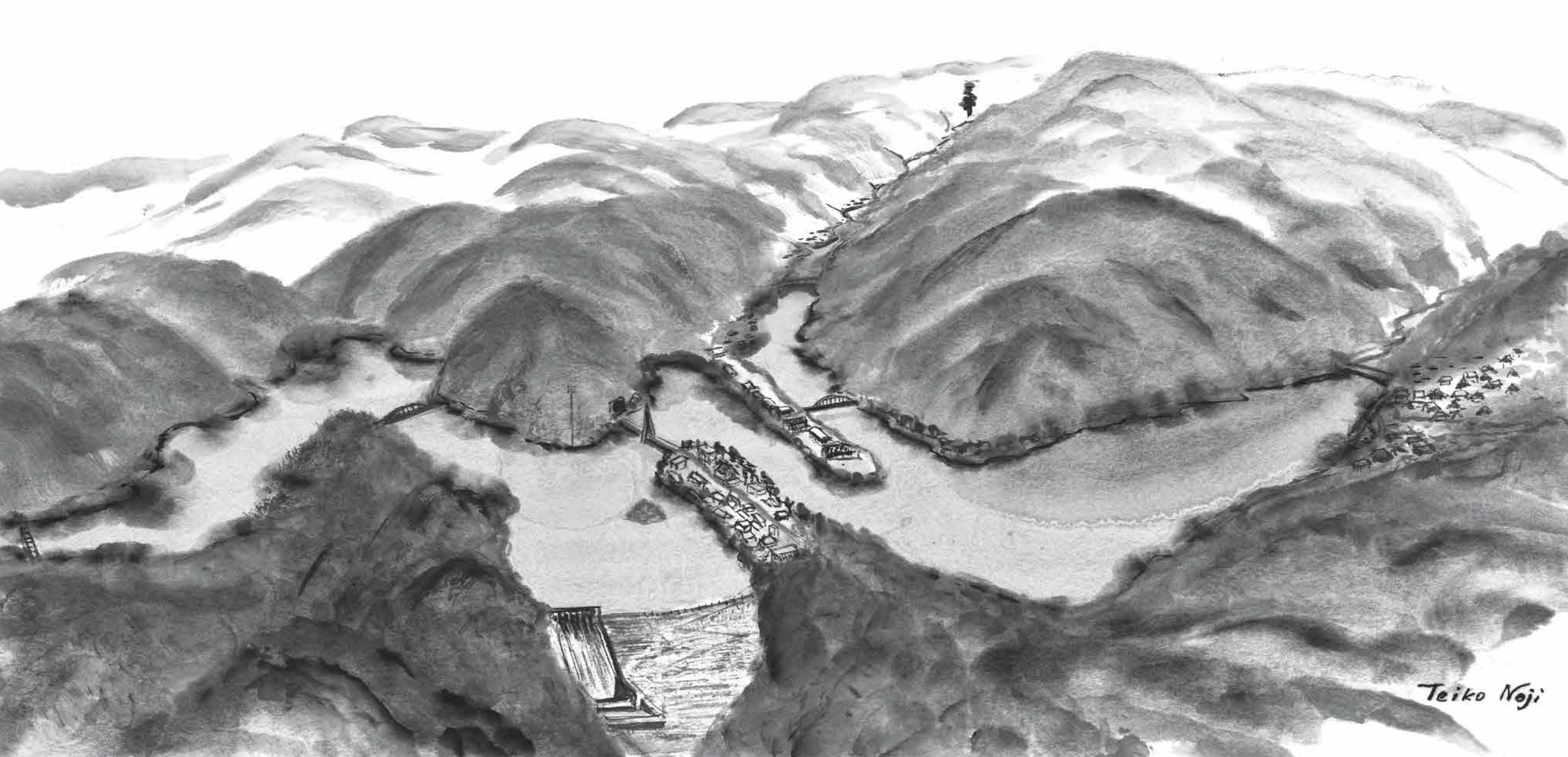
戦国大名の北条氏がきずいた小田原城。昭和の時代には公園となり、園内の動物園にいたゾウのウメ子は子どもたちの人気者でした。そのころ園内には観覧車などのアトラクションもあって、小学生の遠足の定番だったそうです。





みらい さかがわ がわ
未来の酒匂川をイメージしてみた！





Teiko Noji